すっきり生活

春到来 ブーツ収納前のケア

春の訪れとともに出番が減るブーツ。収納して、いざ使おうとしたら、カビや形崩れで台無しだったという経験がある人もいるのでは。来シーズンに向けて今、ケアをしておこう。

まずは、カビ予防から。「靴のカビは靴底からくることが多い」。HITOWAライフパートナー（東京・港）が運営する靴・かばんの修理専門店「靴専科」のレザーケアアドバイザー、大友良祐さんが教えてくれた。

本体のカビが目立つので見落としがちだが、実は靴底の汚れをエサにカビは生える。靴底をきれいにすることから始めよう。

用意するのは市販の消毒用アルコールやタオル、歯ブラシまたは綿棒。「使い古した雑巾は、その雑菌が靴に付いてしまうので避けたほうがいい」（大友さん）

アルコール消毒 溝は綿棒で磨く

水でぬらして固く絞ったタオルに消毒用アルコールをつける。タオルをもんでアルコールをなじませてから、靴底を拭く。溝や隙間は歯ブラシや綿棒できれいにする。

表面がなめらかな本革のスムース革の場合は、クレンジングをした後、クリームで保湿するのが基本。馬毛ブラシで表面のホコリなどを落としたら専用のクリーナーで汚れを落とす。Tシャツなどの柔らかい布を指先に巻きつけ、円を描くように優しく拭く。

革に栄養補給する乳化性のクリームは「靴の色より少し明るめを選んで、量は目安として紳士靴片方で米粒1つかつぶくらいで十分」（大友さん）。Tシャツか靴クリーム用ブラシで塗る。

豚毛ブラシで全体をブラッシング。馬毛に比べてコシが強く、革に必要な量のクリームをなじませるのに適している。靴磨き用クロスで仕上げ磨きをして完成だ。

スエードやムートン、スバックといった起毛素材はブラッシング後、防水スプレーをする。合成皮革の起毛素材も手入れ方法は同じ。スエード用のブラシや歯ブラシで表面をブラッシングするが、このとき「毛を逆立てるイメージで」と大友さん。毛の間に入ったホコリなどが取り除ける。

防水スプレーは表面の色が変わって、しっとりするくらいスプレーさせた後、ドライヤーで乾かす。

起毛素材に使う防水スプレーについて「フッ素系のスプレーを選んでほしい」。宅配クリーニングを手掛けるホワイトプラス（東京・品川）の「くつリネット」事業責任者、魚森敦史さんはアドバイスする。シリコン系は表面で固まりやすく、シミになることがあるからだ。

靴の中は、消臭スプレーや消毒アルコールを染み込ませたタオルで拭く。魚森さん。特にムートンは起毛しているため、スプレーだけでは消臭や消毒が行き渡らない。

こうしたケアはシーズン中も、2週間に1度程度しておくといい。

きれいにしたブーツは、どう保管すればいいか。大友さんは「買ったと箱の箱に入れて保管するのはお勧めできない」という。紙箱は通気が悪く、箱自体に汚れがついていることが多いからだ。靴箱に立てて収納するのが理想だ。箱に入れて保管する場合、紙箱をきれいに消毒し、数カ所穴を開けて通気を確保する。

ロングブーツには必ずブーツキーパーを使おう。市販品もあるし、ペットボトルにタオルを巻いたものでもいい。

靴箱の除菌も忘れずに。ぬれたタオルに消毒用アルコールを染み込ませ、拭いておく。

激しい傷みなど サービス利用も

自分でできるケアではうまくいかない場合もある。カビは拭いても再生し、シミになることも多い。汚れが気になったり、傷みが激しかったりする場合は、プロに任せることも検討しよう。

肌触りが温かいので人気のムートンブーツを、はだしで履く人もかなくない。魚森さんは、「はだしで履いたブーツはクリーニングで丸洗いしたほうがいい」と話す。

靴専科やくつリネットでは特殊な洗浄水や洗剤を使った丸洗いに加え、除菌もする。ブーツのクリーニングは3000円前後から。靴修理と靴磨きの専門店のスピカ（東京・港）はクリーニングと保管両方で1足1万584円。くつリネットとスピカは、郵送で全国から受け付けている。

自分の足に合う一足には値段を超えた価値がある。適切なケアで長く付き合いたい。

（ライター　藤原　仁美）

尾城徹雄撮影

靴底清潔に 通気性も大事

次回予告

何でもランキング

買い物上手　エアコン、機能が高度化

すっきり生活　台所のスポンジ選び

奇岩を見に行こう

掲載日 2019年3月9日 日本経済新聞 プラス1 12ページ ©日本経済新聞社 無断複製転載を禁じます。